

# 先住民族と観光

## Indigenous Peoples and Tourism

執筆者 横田 久貴 黄 旭暉 田村 こずえ 細野 弥恵 斉藤 巧弥 ※1

札幌国際大学観光学部

Sapporo International University Faculty of Tourism

キーワード： アイヌ民族 旅行商品造成 持続的な観光

keyword： The Ainu people Tourism Product Creation Sustainable Tourism

### 1 はじめに

『持続可能な観光の推進を目指す多くの地域では、「何か行動を起こす必要がある」という意識はあっても、実際にどのように取り組むべきか、その具体的な手段やツールがわからないという課題が見受けられます。このような状況において、まず必要なのは、地域が現在どのような状況にあるのかを把握し、観光地としての強みや弱みを理解する「自己分析」です。中でも、日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）を使った自己診断は、地域の得意分野や課題を客観的かつ定量的に把握し、今後の目指す姿や具体的な施策を明確にする助けとなります。』これは、観光庁 HP からの引用であるが、近年、品質保証をはじめ世界的に提供される商品・サービスに関する規格化が進展している。

この規格化に関して、1980年代当初はISO9000sやJIS規格などの品質保証が中心であったが、やがて環境、食品衛生などの領域に拡大し、近年、観光分野にも策定・適用されてきた。その一つが国際基準規格GSTC（Global Sustainable Tourism Criteria）

である。※2

GSTC（Global Sustainable Tourism Criteria）は、観光関連業界がサステナブルツーリズムなどの持続可能性に関する事業を実施する上で、達成すべき最低限の基準を規格化するものであり、以下の主要な4つの柱〔(A)持続可能な管理、(B)社会経済への影響、(C)文化・コミュニティへの影響、(D)環境への影響〕で構成され、その適用範囲は宿泊施設やツアー会社向けのGSTC-I（GSTC Criteria for Tourism Industry）と、観光地を対象としたGSTC-D（GSTC Criteria for Destinations）の2種類からなっている。

規格自体は多岐にわたるが、ここでは「先住民族と観光」に焦点をあて、国際規格を踏まえた「先住民族と観光」の在り方のみを指摘することとしたい。

先述のとおり、GSTCの4つの柱のうち、先住民族と観光に係る部分としては、(A)持続可能な管理では、「顧客に対し、自然、地域、文化などについての情報提供と解説を行い、その適切な行動についての説明も行う。」あるいは「顧客の参加があるごと

※1 令和7年3月札幌国際大学観光学部

※2 GSTCは世界持続可能観光協議会（Global Sustainable Tourism Council）が策定

に、地域の持続可能な観光の計画と運営に関わる。」が該当する。また、(C)文化・コミュニティへの影響では、「外部からの影響を受けやすい場所への訪問に際し、国内外の優良事例を参考に、地元で合意された手引きに従った運営と振興を行い、地域への恩恵と来訪者の満足度を最大限に引き出す。」あるいは、「知的財産権を尊重しつつ、地域独自の伝統的かつ現代的な文化の本質に価値を見出し、それをデザイン、装飾、食、店舗などに取り入れる。」などが該当する。

この規格を実際に運用する上で、チェックリスト化すると次のようになるだろう。  
(筆者作成)

- ①自然・地域・文化遺産に関する適切な情報提供と解説を行っていますか？
- ②訪問者の適切な行動についての説明を行っていますか？
- ③地域が持続可能な観光の計画と運営に関わっていますか？
- ④外部からの影響を受けやすい場所への訪問に際し、国内外の優良事例を参考に運営していますか？
- ⑤地元で合意された手引きに従った運営と振興を行っていますか？
- ⑥地域への恩恵と来訪者の満足度を最大限に引き出していますか？
- ⑦伝統的かつ現代的な文化の本質に価値を見出し、それをデザイン、装飾、食、店舗などに取り入れていますか？

わが国では、2020年に観光庁より日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS）が発行された。このJSTSは国際規格であるGSTCの公認を受けたため、日本版GSTCとして現在稼働している。

以上のことから、これからの観光は国際的な規格を踏まえた運営が必須となってお

り、①規格が求める要求事項に基づき先住民族が居住する地域の状況を適切に把握し、規格や要求事項に基づく「自己分析・診断」を行い、②それを地域コミュニティーを含めた課題にあてはめ客観的かつ定量的に把握し、今後の観光地の目指す姿や具体的な施策を明確にしなければならない。また、あわせて④この過程を先住民族を含む地域住民やステークホルダーと情報を共有し、持続可能な観光に関する意見交換や合意形成を醸成させ、⑤これら規格に沿って行われた一連の取り組みをもとに第三者による認証評価を受け、⑦これを対外的にアピールし、観光地としてのブランド力を高め、競争力向上を果たすことが求められていると言えよう。

このように国際規格にもとづく観光は第三者評価を得て信頼性が高まることが期待される。しかし、筆者はISOに代表される品質や環境マネジメントシステムの審査員としてその職にあたった過去の経験から、規格の認証取得効果を期待するあまり、適用範囲を自社の都合のよい機能部分だけに絞り込むことや、環境影響調査を「カミ・ゴミ・電気」のわかりやすい目標だけに留める安易な認証取得例を目にしてきた。

このようなことから、認証取得によって観光客がすぐに来訪してくれるわけではないし、知名度やブランド力の向上が目的だけになってはならない。大切なことは、地域住民がどのような観光地づくりを実現したいのか、どうすれば持続可能な観光になるのかを地域住民・ステークホルダーとともに継続的に取り組むことである。

今回、阪急交通社の協力を得て、観光学部学生の学びを深める観光教育の在り方を研究・実践する機会を得た。この中で、白老町および平取町観光協会の皆様には、多大なるご支援をいただきましたこと深謝するものである。  
(横田 久貴)

## 2 本奨励教育の構成

### (1) 目的

本奨励教育の目的は、昨年度の「持続可能な観光」に続き、今年度「先住民族と観光」と題して、北海道の白老町及び平取町を訪問し、先住民族と観光に関する基礎的理解の促進と企画型募集旅行の広告作成をつうじた観光の技能獲得を目的に教育を展開することとした。この中で、「観光の技能」として法令に準拠した募集型企画旅行のチラシ（パンフレット）を作成できることを目的とし、その題材として「先住民族と観光」を据えた。

なお、観光学部の新入学生は4月に全員が「旅程管理者資格講習」を受講しており、大半の学生がこの旅程管理者（ツアーコンダクター）資格を取得している。このため、旅行業務に関する一定程度の事前学習がなされている前提の上で、本奨励教育が展開されている。

### (2) 対象学生及び指導教員

対象学生は、札幌国際大学観光ビジネス学科1年生とし、1年生必修科目「基礎演習Ⅱ（2単位）」の中で実践した。担当教員はいずれも観光ビジネス学科所属である。

### (3) 指導計画

まず、事前学習として募集型企画旅行作成に関する基礎的講義をゲストスピーカーである株式会社阪急交通社札幌支店川瀬様にご担当いただいた。その後、現地フィールド・ワークに赴き、白老町・平取町の観光協会の説明（現地ガイド）を受けつつ、現地の基礎的理解と写真など基礎的資料の収集にあたった。

現地視察後、募集型企画旅行のチラシ（パンフレット）作成のため同川瀬様のご指導をいただいた。また、最後に作品発表・評価を行いつつ、観光の技能向上を確認した。

### (4) 観光協会との連携

80名の学生を大型バス2台に分乗させ、それぞれ白老町、平取町の2コースにわかれてフィールドワークを行った。その際、現地の観光協会には以下のご理解をお願いした。

- ①訪問直前に町の観光概要についてグループで下調べをしていること。
- ②阪急交通社の指導の下、「企画型募集旅行」作成の仕方について受講していること。
- ③町の主要な観光地にて写真撮影などの撮影・取材すること。
- ④特に日帰り観光に必要なランチ会場、主要観光地の情報収集を行うこと。

### (5) 教員の担当構成

以降報告書の執筆順となるが、教員の担当は次のとおりである。

- |   |           |   |      |       |
|---|-----------|---|------|-------|
| 3 | 事前・事後研修報告 | … | 執筆担当 | 黄 旭暉  |
| 4 | 白老研修報告    | … | 執筆担当 | 田村こずえ |
| 5 | 平取研修報告    | … | 執筆担当 | 細野 弥恵 |
| 6 | 学生優秀作品    | … | 執筆担当 | 斉藤 巧弥 |

図 令和6年度「先住民族と観光」実施要領

令和6年10月26日  
観光ビジネス学科 横田久貴

[奨励教育] 先住民族と観光フィールドワーク実施要領

- 1 目的 昨年度の「持続可能な観光」に続き、今年度「先住民族と観光」と題して、北海道の白老町及び平取町を訪問し、先住民族と観光に関する基礎的理解の促進と企画型募集旅行の広告作成をつうじた観光の技能獲得を目的に教育を展開する。
- 2 対象学生 札幌国際大学観光ビジネス学科1年生（80名）
- 3 指導教員 観光ビジネス学科基礎演習担当教員  
斉藤巧弥、細野弥恵 … 平取  
田村こずえ、横田久貴 … 白老
- 4 指導経緯 基礎演習Ⅱ（2単位）  
10/23 募集型企画旅行作成に関する基礎的講義（阪急交通社 川瀬様）  
10/27 現地FW 観光協会の説明（現地ガイド）  
11/6 募集型企画旅行作成講義（阪急交通社 川瀬様）  
11/13 作品発表・評価
- 5 研修日時 令和6年10月27日（日）9:00～16:30
- 6 行程 [平取町フィールドワーク]  
8:50 大学集合（9:00 大学発）※高速道路利用  
10:30 平取町二風谷アイヌ文化博物館  
11:00 施設見学  
12:00 昼食（昼食は各自持参、バス内での飲食可）  

12:30～14:00 平取町フィールドワーク（企画型募集旅行広告作成）  
12:30 博物館発 → 12:45 義経神社にてガイド乗車 平村徹郎様  
12:45 義経神社・イザベラバードの道→物産センター

  
14:30頃 平取町内発 → 帰路（大学着 16:30 予定）  
  
[白老町フィールドワーク]  
8:50 大学集合（9:00 大学発）※高速道路利用  
10:00 ウポボイ民族共生体験空間・施設見学  
12:00 昼食（昼食は各自持参またはレストラン、バス内での飲食可）  

12:30～15:00 白老町フィールドワーク（企画型募集旅行広告作成）  
12:30 ウポボイ大型バス駐車場にてガイド乗車 松本暁子様  
仙台藩元陣屋跡 → 駅前通り → マザースプラス（店舗正面バス駐車

  
14:30頃 白老町内発 → 帰路（大学着 16:00 予定）
- 7 成果物 (1)阪急交通社より実技指導（事前・事後指導）を受け、企画型募集旅行の広告を作成する。※サイズはA4版 表裏とし、学生一人1作品の提出を求める。  
(2)事前調査・現地見学を通じて平取町・白老町の観光を理解し、魅力的な発信を検討する。

（横田 久貴）

### 3 事前・事後研修報告

本年度(2024年)秋学期「基礎ゼミⅡ」において企画した奨励教育プロジェクトの一環として、10/23、11/6の2回に分け、外部講師(川瀬一弥(【左下】と【右下】の写真)、阪急交通社・札幌支店所属)を招き、それぞれ「企画型募集旅行のチラシ(【中下】の写真参照)・パンフレットの作成」、「募集型企画旅行の作品評価」と題し、対面講座を開いた。



まず、1回目(10/23)の対面講座は、以下の4項目を立て、それに沿って進めた。

- ①バスツアーの作り方を確認
- ②募集広告作成の基礎・秘訣を学習
- ③バスツアーを完成
- ④募集広告の作成を開始

具体的な内容については、「平取町・白老町の魅力を伝えるバスツアーと、ツアー募集広告を作ってみよう」といったタイトルを掲げ、講師が以下の①～④の注意点を示した上で、ゼミ生(個々)に旅行チラシ・パンフレット作りをさせた。

#### ①【バスツアーに必要な要素】

- a、出発・帰着地…今回は札幌駅北口団体バス乗り場。観光バスの駐車場がある。
- b、目的地…日帰りが成立するなら、何か所でもどこでもOK。
- c、ツアータイトル…そのツアーが一体なんなのかを分かりやすく消費者に伝えるには？
- d、ツアー代金…いくらなら買っていただけるか？
- e、出発・帰着時間・旅行行程(昼食会場含む)
- f、出発日…内容と季節が合致しているか？

#### ②【募集広告作成】注意点：記載必須事項

- a、集合場所、時間…場所は札幌駅北口団体バス乗り場で統一する。
  - b、旅行日程・目的地…一般的には枠に収めて記載しております。滞在時間などは不要。
  - c、ツアータイトル…ツアーの顔です。どこに配置するか？
  - d、旅行代金…重要度は高い情報である。
  - e、出発日…重要度は高くない。
  - f、申し込み方法…仮の電話番号やFAX、WEBの申し込み方法、QRコードなど
  - g、主催旅行会社名…素敵な会社名を付ける。
- a～eはグループで内容統一。fとgは個人それぞれで自由に決める。

#### ③【広告作成の秘訣①】セールスポイントの整理と伝え方

- a、そのツアーの1番のセールスポイントは？2番目は？3番目は？食事？観光地？料金？話題性？

b、原則としてお金がかかっている順に大きなスペースを割くこと。

c、セールスポイントをより明確に伝えるには…

◎とにかく写真が重要 ならびにインパクトのある言葉を駆使する。

◎人に言わせる、説得力が一番あるのは現地受け入れの方々。または下見をした皆さん。(口コミ効果)

④【広告作成の秘訣②】まずはこだわろう、そしてこだわりを捨てる

a、とにかくこだわる

配置にこだわる、写真にこだわる、言葉にこだわる、字体にこだわる、色にこだわる、値段にこだわる、タイトルにこだわる、とにかくまずはいろいろこだわってみる。

b、こだわりを捨てる

こだわり切ったうえで色々入れ込んでから余計なものを削いでいく。俯瞰する。自分以外の目線を入れる。独りよがりになっていないか？見切りをつける→期限にこだわる  
ことが仕事も課題も大事です。また、提出期限を厳守する。

次に、2回目(11/6)の対面講座においては、10/27(日)に事前にフィールドワークを行ったが、そのフィールドワーク先の白老町と平取町で実際に体験した内容や感想などに基づき、観光地のPRチラシ(記載方法、レイアウト、字体などは自由)をゼミ生(個々に)作成させた。完成した作品(例えば、写真1、2)は、その場で発表させ、他のゼミ生にコメントや評価をしてもらい、自/他作品を見比べることによって他作品の強み/弱み、また、自/他作品の改善すべき点や問題点が何であるかを理解させた。以下は、ゼミ生が作成したツアーチラシ(写真2)、及びそれに対する評価内容である。

(写真1)



(写真2)



#### 【評価内容】

「空白がなくて写真やイラストで埋め尽くされていてとても目立っていた。タイトルが大きく、真ん中に配置されていることでコンセプトがわかりやすい。表には写真やタイトルなどの必要最低限なものしか書かれていないので、目に留まりやすく、わかりやすい。デザインや写真が統一されているのでチラシ全体に一体感がある。」

(黄 旭暉)

#### 4 白老研修報告

白老町の観光を理解し、魅力的な発信の仕方を検討することを目的として白老研修を実施した。ウポポイ民族共生象徴空間は、2020年に日本のアイヌ文化の復興・創造等の拠点となるナショナルセンターであり、国立アイヌ民族博物館は、アイヌ民族の誇りが尊重される社会をめざし、多くの人にアイヌの歴史や文化を伝え、アイヌ文化を未来につなげていくために設立された。

ウポポイ民族共生象徴空間は15.1haもの広さを有しており、2023年より誰もが移動しやすいように、体験交流ホール、国立アイヌ民族博物館、コタンなどの各施設への乗降ができる園内バスを運行しており、来場者の利便性の向上につながる取り組みをしている。

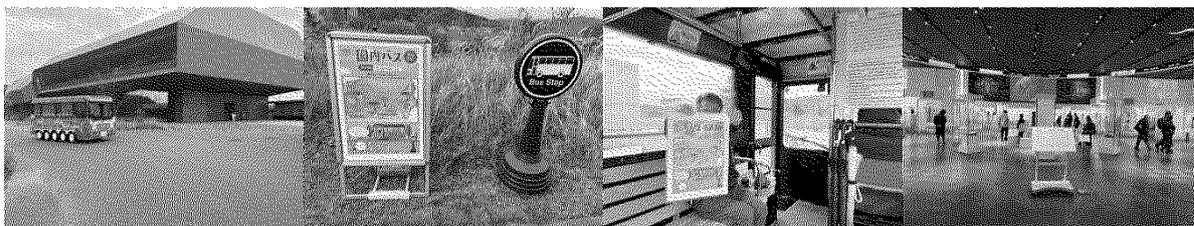


写真 園内バス運行の様子

写真 国立アイヌ民族博物館の様子

学生は雪虫が大量発生の中、国立アイヌ民族博物館の展示を見学し、アイヌ民族の歴史や暮らしなどの文化に関する理解や伝統芸能であるアイヌの歌や踊り、楽器鑑賞やアイヌの衣装を着用、アイヌに伝わる弓矢を使った遊びの弓矢体験など知識だけではなく、実際に観る・触れる・体験する機会を積極的に活用して、アイヌ文化について学びを深めた。

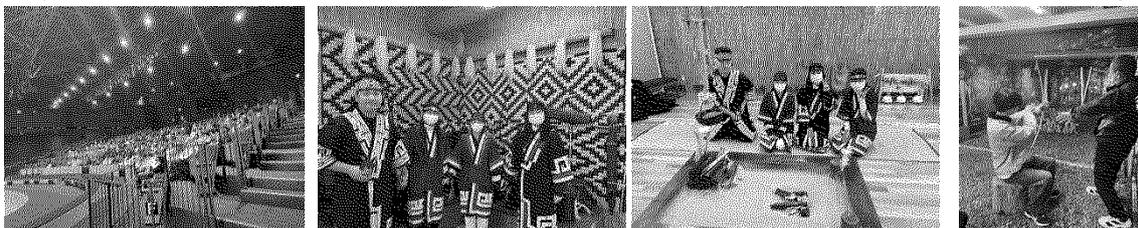


写真 伝統芸能の鑑賞の様子

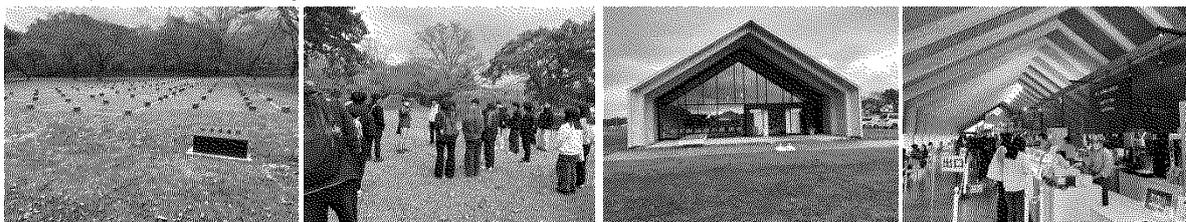
写真 アイヌ衣装の着用の様子

写真 弓矢体験の様子

白老おもてなしガイドの松本様、大橋様の案内により現地調査を実施した。北海道で最古の赤松をはじめ周囲を樹々に囲まれ、幕府は北方警備のため仙台藩士が蝦夷地の白老に陣屋を構えた跡地である「仙台藩白老元陣屋跡」は、1966年に国指定の史跡となり、白老の歴史を伝える貴重な文化財である。「マザーズプラス」では、(有)北海道種鶏農場の天然の飼料や水で飼育した鶏や卵を使ったシュークリームやプリン、ザンギ等を提供している。地産地消の取り組みを実践しており、食を通じた白老の魅力を味わった。



写真 ガイドの様子



写真「仙台藩白老元陣屋跡」現地調査の様子

写真「マザーズプラス」現地調査の様子

### 民族共生象徴空間「ウポポイ」学生感想より

- ・ウポポイの中ではバスが走っていて、移動にも便利だと思いました。ウポポイではムックリの演奏や、民族の踊りなどがあり、アイヌ文化は道民として知らなければいけないことなので、とても勉強になりました。
- ・敷地内も広く、博物館や昔の建物、弓矢の体験もでき、体験しながら学ぶことができるので、すごくいいコンテンツだと思いました。景色もよく、湖も綺麗で建物から見る湖と実際に目の前に行って見る湖と二つの景色を楽しめました。
- ・ムックリや伝統的な舞踊を見てかなり面白く大変感心しました。その踊りは、明治維新以降禁止してしまうなど、アイヌ民族にとっては、屈辱的な時代を送ることになりました。その舞踊を見ることが出来てとても嬉しかったです。
- ・ウポポイという施設の他にも、昔の風景、川、建物などを再現しているところもあって本当にその時代にいるような感じがしてとても楽しかったです。伝統文化を見ることができる施設だけではなく、食事をするところや、アイヌをモチーフにしたお土産などが売っているところもあり凄いいと思いました。

### 「仙台藩白老元陣屋跡」学生感想より

- ・仙台藩元陣屋では敷地内を歩き歴史について学びながら土塁の意味や一本松について触れながらも歩いたので様々な知識が蓄えられた時間となりました。
- ・薩摩藩元陣営では、建物はないけれど160年前の形を間近で見ることができて、興味深かった。城の石壁の作りが地面を盛り上げるように作っており、長屋の跡を見る事ができた。実際にはここでは戦争は起きなかったそうで、実際に戦争が起きていたら今はどのような形になっていたのかなと思った。
- ・元陣屋はもう既に消失してしまい跡しか残っていないがここに武士が暮らしていたのかと思うと面白いと思いました。
- ・ガイドの人の説明を聞きながら仙台藩の人が生活をしていた跡地を見て回りました。建物は取り壊されていて見るができなかったのが残念だったけど紅葉などの自然がとてもきれいでした。

### 「マザーズプラス」学生感想より

- ・主に卵を使った食べ物を販売しており、ガイドさんオススメのたまごプリンとクッキーシューをいただき、どちらも非常に美味しかったです。
- ・プリンや唐揚げを食べることが出来てとても満足でした。白老町は白老牛が有名なので鳥も有名だとは知らなかったのが良い発見でした。今回の白老町を訪れてウポポイだけでは無いというのを学び大変良い勉強になりました。
- ・お昼すぎくらいだったのに売り切れのものもあり、自分たちで計画を立てる時はそこも考慮したいと思いました。まだ他にも白老町の魅力があると思うので、お客さんのことを考えながら計画を立てていきたいです。

#### 【参考資料】

- ・ウポポイ（民族共生象徴空間）公式サイト <https://ainu-upopoy.jp>（2024/01/15閲覧）
- ・北海道白老町\_白老元陣屋の歴史 <https://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/docs/page2013012200588.html?cat=/edu/29/>（2024/01/15閲覧）
- ・白老たまごの里 マザーズH P <https://www.mothers-egg.com>（2024/01/15閲覧）

（田村 こずえ）

## 5 平取研修報告

### (1) 行程

まず「平取町二風谷アイヌ文化博物館」にて主な展示物の解説を受けたあと施設を見学した。バス車中で昼食を取り、バスで「義経神社」へ移動。平村徹郎氏による神社の解説を受けたのち、参加者全員が茅の輪をくぐり参拝した。次いで「イザベラ・バード」に関する解説を平村氏から受けたのち、グループごとにフィールドワークをおこなった。

### (2) 義経神社について

源義経が平取に辿り着き、アイヌ民族に武術、農耕、生活の知恵などを授けたという伝説がある。江戸時代の末期に平取を訪れた近藤重蔵が、平取アイヌが義経のことをあまりに多く語ることを不憚に思い、木の神像をアイヌに授けた。アイヌ文化はアニミズムであり偶像崇拝の文化はないが、近藤から贈られた神像を祀ったことから、これが義経神社の起源となった。



写真 義経神社

### (3) イザベラ・バードについて

イザベラ・バードは1831年にイギリスに生まれた。キリスト教伝道のため1878年に日本を訪れ、日本人や日本文化の調査をおこなった。東京から北上し、日光、新潟、山形、秋田、青森を経て北海道へ渡った。函館、森、室蘭、白老を巡り、最終目的地である平取のアイヌ部落を訪れた。



写真 イザベラ・バードの道(案内)

首長ペンリウク宅に4日間滞在し、アイヌの生活、慣習、宗教などを精力的に調査した。

平取アイヌは義経神社創建の歴史にも見られるように、異文化を受容し、争うより調和を旨とする文化であったことから、バードを受け入れ、調査にも協力したと考えられている。

2007年「イザベラ・バードの道を辿る会」が有志によって設立され、バードの足跡を地域の活性化につなげようとする取り組みがおこなわれている。バードが辿った日高町富川から平取町本町までフットパスコースが整備され、エコ・ツーリズムに活かされている。

#### (4) アイヌと観光

平取町ではアイヌ文化振興公社と旅行会社との共同企画によるインバウンド向けの旅行商品が人気を集めている。フットパスコースを巡りながら「海外の人から見たアイヌ文化」という視点でイザベラ・バードの活動を通して平取アイヌを紹介するとともに、アイヌの生活の基盤となっている沙流川流域の自然を紹介している。

山に分け入るアクティビティもあり、狩猟の場としての山に入る際のアイヌの儀礼を体験することができる。さらに、火起こしやアイヌの食文化の体験などもあるため、直にアイヌ文化を知ることができる企画になっている。

また、びらとり観光協会を通じて学生向けのアイヌ文化体験ツアーもおこなわれている。上記のようなアイヌの日常生活を体験することができ、「平取町二風谷アイヌ文化博物館」の敷地内でアイヌの古式舞踊を見ることもできる。ほかにも、木を切る体験、オヒョウニレの皮剥ぎ体験、織物体験、木彫り体験などの企画もおこなわれている。希望に応じて「イザベラ・バードの道を辿る会」のガイドによるフットパスツアーを組み込むこともできる。

冬季の活動として、ダム湖の上をかんじきを履いて巡るツアーなどがあるが、アイヌ文化を直接知る体験ツアーは難しくなるため、冬季の活動をどのように充実させるかが今後の課題となっている。

「アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本（ATWS2023）」における平取ツアーは非常に人気が高く、2時間で完売となった。このツアーにも上記のようなアイヌ文化体験が組み込まれており、そのほか幌尻岳に至る沙流川源流域でのリバートレッキングも外国人観光客に好評であった。

近年は大学と地域との連携が目立っており、平取町も「大地連携ワークショップ」という学生向けの企画を実施し、全国各地の学生の受け入れを積極的におこなっている。ツアーの最後にワークショップをおこない、アイヌ文化の保全と発信に関して今後どのような展開をしていくか検討するなど、平取固有の文化と環境を生かし、観光振興に力を入れている。

平取はアイヌと共にありアイヌの真髄を活かしていきたいという思いがある。そのため、「観光アイヌ」として商業利益を追求する考え方や、『ゴールデンカムイ』のブームに乗った観光振興からは一線を画しており、商業ベースに結びついて行かない部分のジレンマも抱えている。また、学生の団体を受け入れる場合にも、大規模な宿泊施設がないため、隣接する町村の宿泊施設を利用せざるを得ないという事情もある。

今後、大学等からのニーズが高まれば、町としても受け入れ体制の整備を進め、若い世代による新しいアイデアを取り入れながら、平取アイヌ文化の普及を進めていきたいとのことである。

#### 【参考文献】

イザベラ・バードの道を辿る会（2013）『未次時代に北海道を訪れた英国女性旅行家 イザベラ・バードが歩いた沙流川流域』

（細野 弥恵）

## 6 学生優秀作品

本章では、成果物として学生が作成したツアーポスターのうち特に優秀なものを紹介しつつ、タスクの達成度と課題について報告をする。

図に示した優秀作品6点は表裏各A4サイズで、表（左）にツアーの概要、裏（右）に詳細を記載するという指示のもと作成されている。これらの作品は、ツアーの宣伝における必要事項が記載されていること、ツアーの内容が適切であること、写真などが多用され優れたデザインとなっていることという基準によって選出した。

ここで選出した作品を含め、多くのものがグルメ、自然、文化をキーワードに各地域の名所などをめぐるツアーを作成しており、季節を問わず成立するツアーから、特定の季節に限定したコンテンツを入れ込んだものなど、同じ研修内容から多用な成果物が生み出されている。2コマ分の事前学修と2コマ分の事後学習という限られた時間の中、多くの学生が優れた作品を完成させることができている。特に研修先の平取に関しては、事前学習の段階においても学生から「観光地が少なくツアーの作成が難しい」との意見が聞かれたが、成果物を見る限り、自らツアースポットを見出すことでそうした困難を乗り越えたり、研修において訪れた場所を入れ込むことによってオリジナルのツアーが生み出されており、学修の成果を見てとることができる。

以上の通りツアーのポスターに必要な情報（価格や行程など）については事前・事後学習において細かな指示のもと多くの学生が適切な内容を考案することができている。一方でデザインに関しては学生によって達成度が異なるため、以下ではこの点について簡単に検討をする。

本タスクにおいてもっとも難易度が高かったのは、デザインであったと思われる。まず本プロジェクトにおいては、ツアーの内容を適切に考案することをもっとも重視していたため、デザインソフト自体の習得を目指した訓練は実施せず、学生が他の授業で学習したスキルや学生個人の既存知識にデザイン能力は委ねた。よって学生によってその作業方法は大きく異なり、PCを使用する学生もいれば、スマートフォンのみで作成をするものもいた。また使用するソフトウェアに関しては、Canvaなどウェブ上で無料提供されるデザインサービスと既存のテンプレートを使用する学生、あるいはワードやパワーポイントなどを利用して主にゼロから自らデザインを考案する学生と大きく分かれた。

前者のウェブサービスを利用して作成された作品に関しては、デザイン性に優れた既存のテンプレートなどを使用することで比較的容易に優れたデザインのポスターを作成することができおり、ここで紹介している作品のほとんどもそれらのテンプレートを活用したものである。そのためここで紹介していない作品とほとんど同じデザインのものも実際には存在しており、優れたデザインのポスターが容易に制作できるというメリットと、他者とまったく同じデザインの作品ができてしまい、オリジナリティが失われてしまうというデメリットを窺うことができた。一方でワードやパワーポイントなどのソフトによる作品は、優れたテンプレートを欠くことから多くの作品にデザインの限界がみられたが、その反面、各作品にオリジナリティを見出すこともできるという点で、前者のサービスとは正反対の特徴をみて取ることができる。

また以上の点に関連した課題として、写真素材の限界が挙げられる。研修においてはポ

スター作成用の写真を撮影し、それを使用し作成するよう学生らは指示を受けたが、実際の成果物においては、自ら撮影したものよりもネット上にある、より優れた写真を使用するものが見られた。本プロジェクトでは優れた写真の撮影スキルを獲得することを学習目標とはしていなかったため、ポスターの作成においては練習という性質上、ウェブ上の写真の使用も許容していたが、著作権なども意識した総合的なポスター作成の知識獲得が今後の課題として挙げられる。

図 学生が作成したツアーポスター（一例）



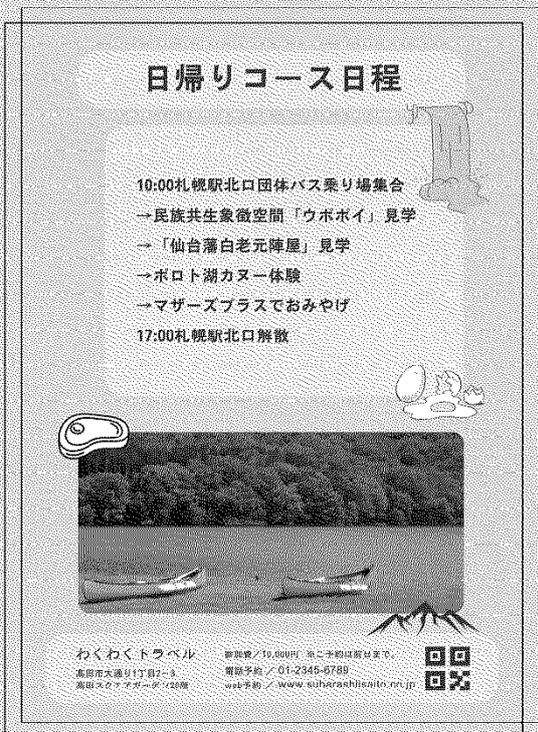
ご予約は電話またはウェブサイトより

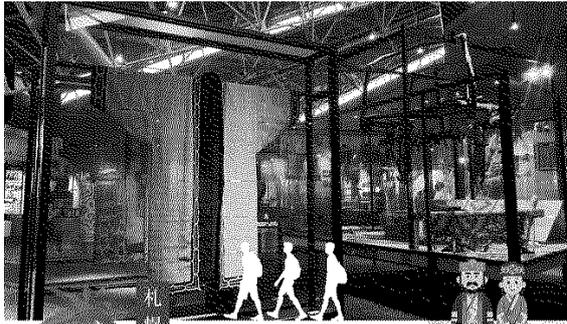
株式会社 F F 旅行会社  
123-456-7890 (受付時間9:00-18:00)不定休  
www.reallygreatsite.com

集合場所 札幌駅北口団体バス乗り場

ツアー日程

- 9:00 札幌駅北口団体バス乗り場集合
- 10:30 二風谷アイヌ文化博物館
- 12:00 義経神社参拝
- 13:00 生そば藤
- 14:30 びらとり温泉 ゆから
- 16:30 平取町出発
- 18:00 札幌駅北口到着





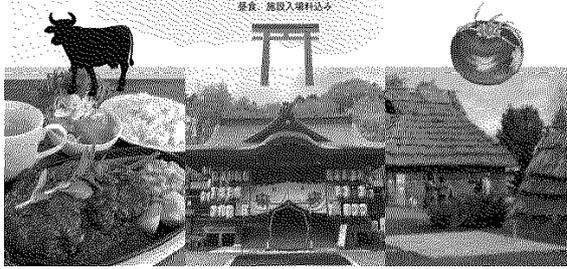
札幌発

色づく秋の

# 平取探訪

自然と文化を巡る1日

日帰り ¥ 8500 /名  
昼食・施設入場料込み



# 色づく秋の 平取探訪

自然と文化を巡る1日

■ご出発日 2025年10月25日(土曜日)

■旅行代金(おひとり様) 昼食・施設入場料込み

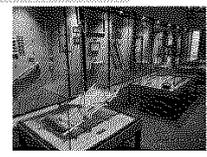
**8500円**

※詳細スケジュール  
札幌駅北口(9:00)⇒①義経神社/紅葉の美しい神社を散策(11:00~12:00)⇒②CA 'Isino cafe Ann/平取産食材を使ったご昼食(12:15~13:30)⇒③二風谷アイヌ文化博物館/平取のアイヌ文化を見学・体験(13:45~15:00)⇒④アイヌ工芸伝承館クレンパ/アイヌ工芸品制作体験(15:00~16:00)⇒⑤北の工房つとむ/土産(16:15~16:45)⇒⑥札幌駅北口(16:45)解散

■集合場所：札幌駅北口団体バス乗り場



②義経神社



④二風谷アイヌ文化博物館

ご予約・お問い合わせ

0120-110-0007

(9:00~17:00)

■旅行企画・実施(株)暮葉通観光

観光庁登録登録旅行業第3777号  
一般社団法人 全国旅行業協会正会員  
〒980-0007 宮城県仙台市青葉区一番町7-1  
ボラリスビル7階



白老の生活を体験  
**白老も満喫**  
アイヌの冬を満喫できる!!!  
白老ならではの広大な自然と  
地産のグルメを満喫する  
ツアーを日帰り体験!



QRコードはこちら



お申し込みはこちらから

0120-889-514

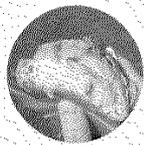
siudehanaiyo514@tabun.jp  
https://forms.gle/LCraK38Eug  
FjYPeQ7

1  
12  
san  
9:00-

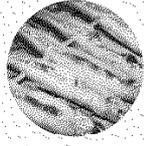
Siraoi  
special  
lunch.



真冬のポロト湖で  
特別なランチ会



マザーズプラス  
白老産の  
平飼いたまごを使った  
シュークリームを  
食べることができる。



わかさぎ  
自分で釣った  
わかさぎをその場で  
焼いて食べれる。

Menu  
ツアー行程  
札幌駅北口集合9:00  
ソウザイ釣りにご飯(2時間)  
10:45-12:45  
マザーズプラス(20分)  
12:55-13:15  
湖上の湖風魚オムレツ(90分)  
13:40-15:10  
たぬき詰め体験(45分)  
15:25-16:10  
札幌駅北口解散16:00

主催 | 白老観光クラブ お問い合わせ | 0120-889-514





平取の自然とアイヌ  
文化を巡るツアー

参加費 **8,000円**~  
(税込み)

集合時刻 9:00  
集合場所 札幌駅北口団体バス乗り場  
行き先 北海道平取町  
昼食 生そば饂飩

アイヌ文化  
を美しく

美食  
を美しく

景色  
を美しく



信頼トラベル会社

住所：札幌市厚田区厚田4条1丁目  
電話番号：123-456-7890  
お申し込み・QRコードまたは電話でお申し込み



札幌観光バス

2025年3月22日 (土)



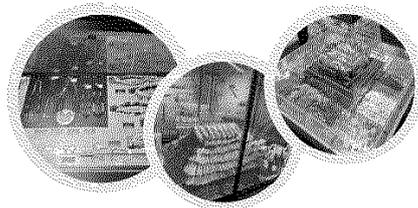
9:00 札幌駅北口団体バス乗り場

11:30 生そば饂飩/昼食

12:30 平取町立ニ逸谷アイヌ文化博物館

13:45 平取町アイヌ工芸伝承館ウレンバ

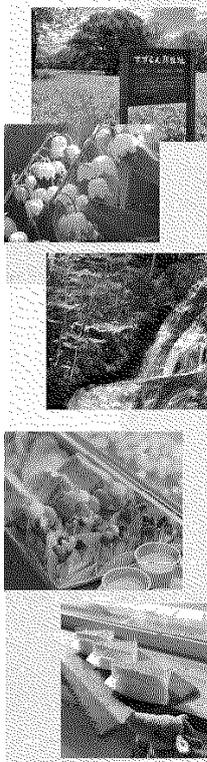
15:00 札幌駅北口



2025年6月6日

# 平取町

自然いっぱい  
食べ物いっぱい  
心温まる  
平取1日満足旅

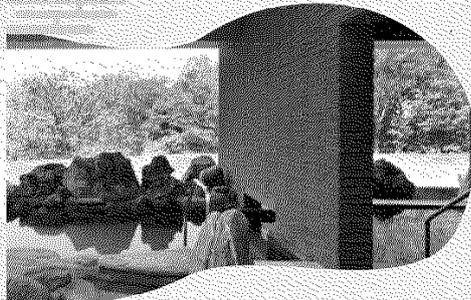


おひとり様 **25,000円** (税込)

ご予約、お問い合わせ

123-456-7890

にこちゃんトラベル



詳細のご案内

札幌駅北口  
段の滝  
美味しい宿ゆから  
平取温泉  
はれのあき  
すずらん群生地  
札幌北口解散



9:00~  
10:30~  
12:00~  
13:00~  
14:50~  
15:50~  
18:30~

(斉藤巧弥)